

芦屋学園高等学校

〒659-0011 兵庫県芦屋市六麓荘町16-18 ☎0797-31-0666

活動団体 ボランティア部 活動人数 6人 主な活動時間 部活動として

「MOTTAINAI」と「貧困」をなくそう。

きっかけ

日本人1人あたり、お茶碗1杯分の食べものを毎日捨てている――。取り組みのきっかけは、食品ロスにまつわる「もったいない」現状を知ったことだった。何かできることはないのか、ボランティア部で意見を出し合いながら、「食」を取り巻く環境を一つひとつ改善していくことにした。

合言葉は「MOTTAINAIをなくそう」。環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさん(ケニア)は、日本語のその言葉を知り、地球資源に対する尊敬の念が込められているとして、世界共通語にしようと提唱した。ボランティア部の部員たちは地域に貢献し、社会に役立ちたいという思いを込めて、活動に取り入れようと考えた。



子ども食堂では、月2回スタッフと協力しながら食事を作った。

活動内容

SDGsのなかでも、誰もが必要な食べものを得られる社会が目指されている。高校生たちは貧困や飢餓、食品ロスをなくすため、まず学校内でSDGsの啓発ポスターを掲示し、全校生徒に呼び掛けた。

さらに具体的なアクションとして、フードバンク団体に、家庭で余ったMOTTAINAI食品を提供。フードバンクとは、賞味期限が近かったりラベルの印字ミスがあったりして、通常の販売が難しい食品・食材を引き取り、福祉施設などへ無償提供するボランティアだ。

また地域の子ども食堂に、ボランティアでの参加も行った。



フードバンク団体に食品提供なども行った。

成果

校内でのSDGs啓発は、「まだ食べられる食べものが捨てられてしまう問題の解消のために、食品ロスを減らそう」との呼び掛けを続けたところ、実際に食堂の残飯や食べ残しが減っている。

子ども食堂の活動では、子ども、親、地域の人々の笑顔が見られたのが何よりの成果だ。時間とともに調理や配膳もスムーズになり、スタッフと連携しながら、充実感を持って活動できた。高校生たちは、地域との交流が増えて「良いまちづくりに役立っているのでは」と笑顔を見せる。

活動エピソード

子ども食堂でのボランティアに参加した際は、彩りや詰め方を工夫して、少しでもおいしく見えるように工夫した。子どもたちから「いつもありがとう!」という声を掛けられることもあり、そのことでさらに意欲的に活動を行うようになった。

今後の展望

SDGs達成を意識しながら、今後も校内のあらゆる場所にポスターを掲示し、一人ひとりの心掛けを呼びかけていく。また活動で学んだごみの分別やリサイクル、環境問題、食料の大切さなどは、普段の生活で自ら実践していこうと決意している。